

第7章

参考資料

参考資料として、今年度の調査問題の公開問題、令和3年度の調査分析に係るスケジュール、令和3年度鳥取県学力向上戦略図を掲載しています。



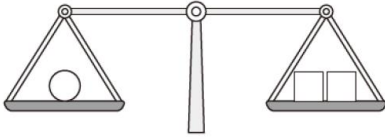
小学校算数・中学校数学 サンプル問題

今年度の調査問題から、公開問題として公表されている問題を各学年1問ずつ掲載しています。一部ではありますが、どのような問題が出題されているのか参考にしてください。

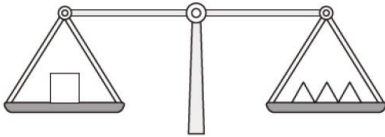
小学校 第4学年

(4) □, ○, △の3つのブロックの重さをくらべます。

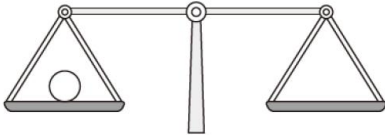
□のブロック2こと, ○のブロック1この重さをくらべたところ, 同じ重さになりました。



つぎに, □のブロック1こと, △のブロック3この重さをくらべたところ, 同じ重さになりました。



○のブロック1こと同じ重さになるためには, △のブロックをいくつのせればよいですか。答えを書きましょう。



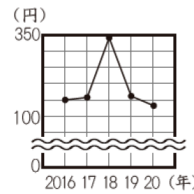
正答:6

小学校 第5学年

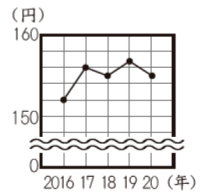
(2) たまごの価格は10こでおよそ200円です。何年も前からたまごの価格はほとんど変わっておらず, その特ちょうから, たまごは「物価の優等生」と言われています。

次のグラフは, 食べ物の価格のグラフです。たまごの他に, 「物価の優等生」であることがわかる食べ物を, 次の㊦から㊨の中から1つ選びましょう。

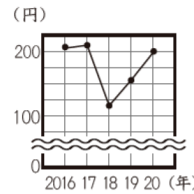
㊦ キャベツ1kgの価格



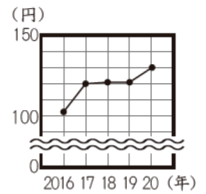
㊧ もやし1kgの価格



㊨ だいこん1kgの価格



㊩ バナナ1kgの価格



正答:イ

小学校 第6学年

(4) 15Lのジュースを10等分したうちの3つ分は, 何Lですか。

分数で書きましょう。

正答: $\frac{9}{2}$

中学校 第1学年

(9) $\frac{2}{3}$ dL で $\frac{2}{5}$ m² ぬれるペンキがあります。このペンキ1 dL で何 m² ぬれるか求めなさい。

正答: $\frac{3}{5}$

今年度の調査問題から、公開問題として公表されている問題を各学年1問ずつ掲載しています。一部ではありますが、どのような問題が出題されているのか参考にしてください。

小学校 第4学年

14

高山さんは生き物係で、学校で飼っているヤギの「メイ」について学級新聞で紹介することにしました。次は、高山さんが書いた【学級新聞の一部】と、それを読んだ【高山さんと林さんの会話】です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【学級新聞の一部】

学校にくらす生き物を知ろう

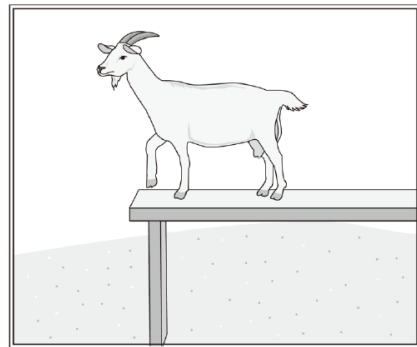
みなさんは、生き物係が中心となって世話をしているヤギの「メイ」を知っていますか。

メイはメスのヤギで、二才になります。毛は白く、さらさらです。

生き物係は、曜日ごとに交代でエサをあげたり、ヤギ小屋のそうじをしたりしています。エサは、主に牧草をあげますが、メイがあきないように野草や野菜くずもあげます。

メイは高いところがお気に入りで、そうじ中は、よく木の台の上にあります。ヤギは足の先がヒヅメになっているため、木や岩場なども軽々とのぼるそうです。

うれしいときは、犬のようにしっぽをふって、こちらに向かって何度も鳴きます。とてもかわいいので、みなさんもメイに会ったら、しっぽに注目してみてください。 (高山 はな)



↑木の台に上がるメイ (写真)

【高山さんと林さんの会話】

林さん …… 学級新聞を読んでメイとふれ合っていたと思います。ふれ合うことはできますか。

高山さん …… はい、できます。ふれ合うときに、気をつけてほしいことが三つあります。一つめは、ふれ合う前と後に手を洗うこと、二つめは、生き物係や先生につきそってもらうこと、三つめは、大きな音を出さないようにすることです。

林さん …… 大きな音を出さないようにするのはなぜですか。

高山さん …… ヤギはとてもこわがりです、大きな音を出すとおどろいてにげてしまうからです。

林さん …… わかりました。ありがとうございます。

(1) 高山さんは学級新聞でどのような工夫をして書いていますか。次の1〜5の中からふさわしいものを、二つえらびましょう。

- 1 メイの世話をする手順を、写真などの資料を用いて書いています。
- 2 メイの注目してほしい所を、呼びかけの言葉を用いて書いています。
- 3 メイのかわいい情報を、メイとほかのヤギをくらべて書いています。
- 4 メイの思い出を、音や動きをあらわす言葉を用いて書いています。
- 5 メイのふだんの様子を、自分が体験したことにもとづいて書いています。

正答: 2、5

今年度の調査問題から、公開問題として公表されている問題を各学年1問ずつ掲載しています。一部ではありますが、どのような問題が出題されているのか参考にしてください。

小学校 第5学年

14

次の の文は、田中^{たなか}さんが書いた文です。田中さんは文の見直しをして、文の途中^{とちゅう}で主語が変わっていて読みにくいと思います、書き直すことにしました。文の意味が変わらないように、あとの にはまる言葉を書きましよう。

本を読んでいるうちにねてしまって、妹がぼくを起こした。



本を読んでいるうちにねてしまって、ぼくは

正答例…妹に起こされた

今年度の調査問題から、公開問題として公表されている問題を各学年1問ずつ掲載しています。一部ではありますが、どのような問題が出題されているのか参考にしてください。

小学校 第6学年

14

石田さんのグループは、「発酵食」について調べたことをクラスで発表することになりました。次の【発表原稿の下書きの一部】と、推敲のための、グループの【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【発表原稿の下書きの一部】

次に「発酵食」とはどのようなものか説明します。

「発酵食」とは微生物の力で食品を変化させたものです。

「発酵食」の特徴は主に四つあります。一つめは、ビタミンなどの栄養が多くふくまれていることです。二つめは、うまみや風味が豊かなことです。三つめは、腸内の環境を整えてくれることです。四つめは、保存がきくものもあることです。「発酵食」は私たちの健康を保つためにもよいものなので、食生活に取り入れたいですね。

「発酵食」は、私たちの身の回りにたくさんあります。たとえば、納豆や、キムチ、しょうゆや、みそ、お酢やヨーグルトなどです。

～原稿は続く～

【話し合いの様子】

石田さん… 原稿の「発酵食とはどのようなものか」についての部分をどう直せばいいか話し合います。

山村さん… 発酵食は「食品を変化させたもの」ということですが、食品が変化するというのがどういうことか伝わりにくいと思います。

花田さん… 「何が」「どのように」変化するかを具体的に書いた方が伝わるということでしょうか。

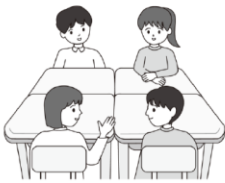
山村さん… はい、そうですね。

花田さん… いいですね。

石田さん… 他に意見はありますか。

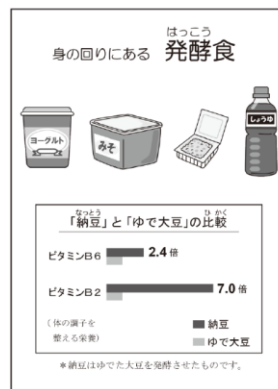
長井さん… 聞いている人が納得できるように資料を示すと良いと思います。

～話し合いは続く～



(2) 【話し合いの様子】に、資料を示すとありますが、話し合いのあと、石田さんたちは発表で次の

資料を提示することになりました。この資料を示すことの効果として適切なものを、あとの1～5の中から二つ選びましょう。



- 1 「発酵食」は、うまみや風味が豊かであることを伝えられる。
- 2 「発酵食」が、身の回りにあるものだということを伝えられる。
- 3 「発酵食」へど、さまざまな食品が変化していくことが伝えられる。
- 4 「発酵食」には、栄養分が多くふくまれていることが伝えられる。
- 5 「発酵食」は、他の食品と比べて保存性が高いことが伝えられる。

正答: 1、4

今年度の調査問題から、公開問題として公表されている問題を各学年1問ずつ掲載しています。一部ではありますが、どのような問題が出題されているのか参考にしてください。

中学校 第1学年

14 岸本さんは、クラスで地域の文化を紹介するために、和紙作り工房で働く宮田さんにインタビューをしました。次の「インタビューの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「インタビューの一部」

岸本さん： この地域には和紙作りの工房がいくつかありますが、和紙作りがさかんなのですか。

宮田さん： はい、そうですね。この辺りは和紙作りに適していて、千三百年ほど前から和紙が作られていると言われていました。

岸本さん： なぜ、この辺りは和紙作りに適しているのですか。

宮田さん： 和紙を作るための植物と、和紙作りに欠かせないきれいな水があるからです。

岸本さん： 和紙を作るための原料と環境がそろっているということでしょうか。

宮田さん： そうです。

岸本さん： 和紙の原料について教えてください。

宮田さん： 和紙の原料には「コウゾ」や「ミツマタ」などがありますが、この地域では「コウゾ」を原料に使っています。「コウゾ」

はクワのなかまの低木です。

岸本さん： 「コウゾ」で作った和紙には、どのような特徴がありますか。

宮田さん： 「コウゾ」は光沢があつて繊維が長いので、美しく丈夫な和紙ができます。

岸本さん： よくわかりました。

宮田さん： ここで作っている和紙には、色がやや黄ばんでいるという特徴があります。製作過程で、和紙の色を白くするための薬品を使わないためです。

（インタビューは続く）

(1) 岸本さんのインタビューのしかたの工夫として適切なものを、次の1～5の中から二つ選びなさい。

- 1 質問の答えに相づちを打つことで、相手が話をしやすいようにしている。
- 2 言葉をかえて質問をくりかえすことで、意図を正しく伝えようとしている。
- 3 質問の答えに対してさらに理由をたずねて、相手から話を引き出している。
- 4 事前に調べた内容と比べながら質問して、新たな情報を得ようとしている。
- 5 相手の言葉を言い換えてたずねて、自分の理解が正しいかを確認している。

正答：3、5

令和3年度とっとり学力・学習状況調査の分析に係るスケジュール

	県教委	市教委（鳥取市・米子市）	市町村教委（他）	学校
9月	とっとり学調 結果公表	<p>■教員対象の分析方法説明会（東部会場・西部会場）</p> <p>各学校より1名（悉皆）</p> <p>各市の結果を基に分析方法を周知する</p>	<p>■教員対象の分析方法説明会（東部会場・中部会場・西部会場）</p> <p>各学校より1名（悉皆）</p> <p>結果を基に分析方法を周知する</p>	授業改善報告書の書式受け取り
10月	<p>■学力向上推進PT会議（10/13）</p> <p>・学力向上施策について検討</p> <p>・とっとり学調分析報告</p>			<p>とっとり学調 個人票返却（返却日は学校で設定）</p> <p>・各校で結果の分析を行う</p> <p>・全職員で分析結果を共有し、授業改善に取り組む</p>
	<p>分析委員会メンバー（県教委指導主事＋市町村教委指導主事）を中心に、分担して報告書の原稿を作成する。</p> <p>◇小算数・小国語</p> <p>◇学校から好事例を聞き取り、資料を作成</p>		好事例を各学校に配信	
11月	<p>■分析委員会</p> <p>分析結果や好事例をまとめた報告書を作成する。</p>			
12月				
1月				
2月	<p>■学力向上推進PT会議（2/21）</p> <p>・本年度の学力向上施策の検証</p> <p>・来年度学力向上施策について検討</p>			
	とっとり学調報告書完成		報告書を各学校に配布	
3月		<p>■R4とっとり学調実施説明会（オンラインにて2回開催）</p> <p>各学校より1名（悉皆）</p> <p>報告書の内容を周知、R4の調査方法を説明</p>		

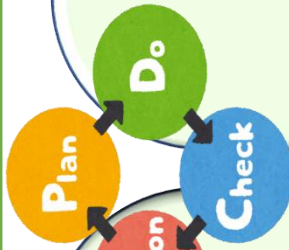
2本の柱で、児童生徒に「力をつける」先生を育てる

「伸びる」集団作り

「とっとり学力・学習状況調査」
による個や集団を伸ばすための
PDCAサイクルの構築

授業の質の向上

「全国学力・学習状況調査」
による授業改善に向けた
PDCAサイクルの構築



P

分析委員会

- 東、中、西部の市町村指導主事、県指導主事等でチームを編成し、調査結果を分析する
- 「学力を伸ばしている」先生の実践を参観したり、聞き取ったりして、そのノウハウを収集し、報告書を作成する

分析方法説明会

- 東、中、西部で全小学校担当者対象に、結果の分析手法について研修会を開催し、自校で分析できるようにする

校内分析研修会

- 要請に応じて学校に出向き、結果の分析・活用方法について研修を行う

D

調査結果活用協力校

東、西部に協力校を指定し、「伸びる」集団作りについて継続して支援する

好事例周知

「学力を伸ばしている」学校や先生の実践を聞き取り、好事例として発信し、周知を図る

学校支援

- スーパerverバライザー派遣
- 若手教員を先進地(校)へ派遣

P

課題の分析

- 結果から正答率の低い問題や平均よりも正答率が低い問題について分析し、授業改善の方策を立てる

問題の分析

- 先生が実際に問題を解き、その問題に込められている授業改善のメッセージを読み取り、授業改善の方策を立てる

自校採点(研修)

- 校内研修として、児童生徒の解答を採点し、誤答分析を授業改善につなげる

D

B-PLAN

- 毎月問題を配信(国・算)
- 授業改善のポイントについて各教育局が支援

学校支援

- スーパerverバライザー派遣
- 若手教員を先進地(校)へ派遣

単元到達度評価問題

- 毎月問題を配信(1-6年算数)
- 到達度の報告
- 授業改善のポイントをフィードバックする

学力向上研修会

- 秋田県教育専門監の招聘
- 調査問題作成者の招聘(教科調査官・元学力調査官)

C

全県小学校訪問

- 年間2回、県内全小学校の算数の授業を参観し助言を行う
- 全県共通の授業評価シートを作成し、「算数大好き!プロジェクト」の重点項目の周知徹底をはかる

学力向上PT会議

- 外部アドバイザー、町長、有識者、市町村教育長代表、校長会代表等でプロジェクトチームを設置し、学力向上対策の方向性や取組の検証、効果的な取組にするための改善等について協議する

A

「伸びる」集団作りに向けた実践

「伸ばした」先生の実践を学校・地域内で共有し実践

授業の質の向上に向けた実践

求められる学力を理解し、児童生徒に力をつける授業を実践

MEMO

連絡先

鳥取県教育委員会事務局

小中学校課学びの改革推進室

電話 (0857) - 26 - 7947

ファクシミリ (0857) - 26 - 8170

電子メール shouchuugakkou@pref.tottori.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/shouchuugakkouka/>

